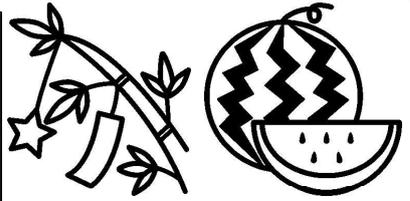


清純・愛郷



「基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って自立に向かう生徒の育成」

～ 元気な生徒 元気な先生 元気な学校 ～ 令和元年7月 8日(月)

◇丹波篠山市立西紀中学校 ◇丹波篠山市宮田175 ◇tel 593-0032 ◇fax 593-0041

NO7

市総体終了！次は丹有総体へ！

6/28～29の2日間、市内各会場で丹波篠山市中学校総合体育大会が開催。各種目で熱戦が展開されました。結果はさておき、西紀中学校各部の「全力で必死で一生懸命のプレー」に熱いものを感じ、心動かされるシーンがいっぱいありました。随所で3年生の意地が見られ、特に、野球部とソフト部では、入学間もない1年生の、何とも言えない必死の姿がありました。欲を言えば、「もう少し勝てたかな・・・」「優勝できたかな・・・」という感はありますが、今後、この悔しさをステップに、次の大会へ、新たなステージへ、しっかりとスタートを切ってほしいものです。

ただ、西紀中学校各部の試合を見せて頂いて、感じたことがありました。それは、緊張感やプレッシャーの中、普段通りのプレーができない！ここ一番のプレーで、弱気になって勝負できない！上手く回っていないときに、我慢できない・踏ん張れない！という場面が結構ありました。緊張感とプレッシャーを背負って、部員全員の思いを背負って、体力的にも限界を超えている中、しかし、練習通りのプレーが出来なければ勝利をつかむことはできません。それでは、出来るようにするためには・・・？



優勝した男子バスケットボール部

普段の練習の中で、普段の練習試合の中で、同じような場面を設定した緊張感の中での練習が出来ているのでしょうか。

普段から、この究極の1プレーを意識した練習はできているのでしょうか。部活動を離れた普段の生活で、自分で自分を追い込むこと、安易な方に流されない生活は出来ているのでしょうか。時間をかけた、量をこなす練習も必要です。しかし、究極の場面で、当たり前なのが当たり前出来るためには、どんな練習が必要なのか！同じ失敗・同じ反省を繰り返さないためにも、各部とも、顧問の先生に言われるのではなく、自分たちで、1年間の練習の在り方、取り組み方、練習の方法等を考えてみる時期。それが、各部とも新チームがスタートする7月なのです。

7月13日～14日は、各種目とも県総体出場を懸けた丹有大会が行われます。西紀中学校各部の更なる飛躍を大いに期待します。市総体の結果は次の通りです。

男子バスケットボール部	優勝	丹有大会出場
女子卓球部	団体戦 準優勝	丹有大会出場
	個人戦	5位藪内結女 6位伊藤茜 8位平塚祐羅 9位井上春奈 12位久禮朱里 以上、丹有大会出場
男子バレーボール部	準優勝	丹有大会出場
ソフトボール部	三位	丹有大会出場
野球部	惜敗	
女子バレーボール部	惜敗	



期末個人懇談会・トライやる報告会 お世話になりました!



3日(水)より5日(金)までの3日間、1学期末の個人懇談会を実施しました。短時間ではありましたが、1学期の学校での学習状況や生活状況及び今後の対応等につきまして、お話をさせていただきました。当然、学年によって内容も異なります。3年生は卒業後の進路決定に向けての三者懇談、1・2年生は、夏休みの生活や学習、今後の学習方法等が中心となりました。学校としましては、今回の懇談会で出された貴重なご意見、様々な悩みや要求等は共通理解し、2学期以降の教育活動に生かしていこうと思っています。今後とも、学校と家庭が共通歩調で取り組んでいきたいと思います。お気づきの点は遠慮なくお申し出下さい。宜しくお願い致します。

また、3日は、2年生のトライやる・ウィーク報告会に多数ご参加頂きましたこと、感謝申し上げます。結団式での決意表明、今回の報告と、自分の思いや意見、考えを、しっかりと述べる事が出来ていることに、成長の跡がうかがえます。今後、更にこの表現力を伸ばしていってくれることを大いに期待しています。また、トライやる5日間での、新しい発見・新しい体験を自分の財産として、今後の進路設計・人生設計に活かして下さい。

お世話になった事業所の皆様・保護者の皆様、本当にありがとうございました。



活動報告の一コマ!

事業所より熱いメッセージ!

「ネット依存・ゲーム依存」学習会を開催!

6月26日(水)3・4時間目、神戸大学大学院医学部教授の曾良一郎先生を講師にお迎えし、全校生で、「ネット依存の実態について～自分の生活を見つめよう～」をテーマに学習会を行いました。

ネット依存・ゲーム依存とは、スマホや携帯電話等の使用も含め、「ネットやゲーム等に費やす時間や頻度をコントロール出来ない状態」「日常生活において、ネット・ゲームを最優先している状態」「このような行動が1年以上続き、日常生活に支障をきたしている状況」を指します。まさしく、アルコール中毒と同様の、依存・中毒の状態です。子どもだけではなく、大人まで、このような患者が一気に増加の傾向にあります。曾良先生から、ネット依存の実態とその原因、高度情報化社会に潜む危険、安全で正しい使い方等についてのお話がありました。

また、この学習会の前に、全校生を対象としたアンケート結果より、本校の生徒も、約6割の生徒がスマホ・携帯電話等を所持している、約6割の生徒が1日に2時間以上は情報機器やゲームに費やしている、帰宅後、約7割の生徒が30分～1時間に1回はスマホや携帯電話を見ている(約1割の生徒は5分以内に1回は見る)、約4割の生徒がLINE等で「既読」がいたら5分以内に返信するべきであると考えている、という結果が出ています。また、件数は少ないですが、動画投稿、月5千円以上の課金、ネット上のけんかやトラブル、有害サイトへのアクセス、知らない人とのネット上でのやり取り等も出てきています。さらには、約4割の生徒が家で使用上のルールを設定していないと答えています。

学校でも指導や啓発は続けていきますが、各ご家庭でも再度、次の点を宜しくお願いいたします。

※必ず、使い方のルールを設定し、使用方法について親子で確認して下さい。(特に、時間・課金)

ルールが決められていない場合は、今からでも遅くありません。必ず設定を!

※ルールを守って使用できているかを確認してください。

※「守っていないから、単純にすぐに没収」は反発を招くだけで逆効果となります。

守られていない場合は、しっかりと親子で向き合っ、話をしてください。

